

IR活動

株主・投資家との対話

株主総会、四半期ごとの決算および中期経営計画説明会においては、株主・投資家との貴重な対話の機会であり、CEOをはじめとした経営トップが積極的に対応しております。また、執行側のトップだけでなく、監督側のトップである取締役会議長かつ社外取締役も株主・投資家と直接対話を行っています。

今後とも、経営方針や事業戦略等の説明を通じて、当社の事業や企業価値について、ご理解いただけるよう、株主・投資家へ丁寧にお伝えする機会を創出してまいります。

活動の内容	実施回数	対話人数
株主総会 (2026年6月)	1回	87名
2025年4月1日～2026年3月31日		
活動の内容	実施回数	延べ対話人数
決算説明会	4回	218名
個別面談	170回	327名
証券会社主催のIRカンファレンス	2回	11名
社外取締役との対話	1回	22名
事業説明会・工場見学	1回	19名

株主・投資家からの意見を踏まえた対応		
事業説明会/ 工場見学会の開催	意見	今後注力していく事業および既存事業の将来展望を説明してほしい
	対応	証券アナリストや国内機関投資家を対象に事業説明会および工場見学会を開催
キャッシュ アロケーションの 開示	意見	投資や株主還元などを含めた中長期的な資金計画を開示してほしい
	対応	中期経営計画(2024-2026年度)において、3年間のキャッシュアロケーションを開示
資本コストおよび ROE目標の開示	意見	資本コストを上回るROEの達成時期を明確化してほしい
	対応	中期経営計画(2024-2026年度)において、資本コストとROEの現状と今後の目標を開示
情報開示の充実	意見	決算説明会資料を事前に開示してほしい
	対応	これまで決算説明会と同時に開示していた資料を事前に開示
	意見	決算発表から決算説明会までの期間を短縮してほしい
	対応	決算説明会の開催日程を従来より短縮して開催
社外取締役との 対話機会の創出	意見	ガバナンスの考え方と実効性を確認したい
	対応	証券アナリストや国内機関投資家を対象に社外取締役との対話を実施

指数への組み入れ*1

当社は、株式市場において、ESGに積極的に取り組む企業として評価され、複数のSRI(社会的責任投資)/ESGインデックスなどに組み入れられており、引き続き積極的な取り組みと情報開示を行ってまいります。

■ MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数*2
2026 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

■ MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数*2
2026 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

■ MSCI日本株女性活躍指数(WIN)*2
2026 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数(WIN)

■ Sompoサステナビリティ・インデックス



■ Morningstar Japan ex-REIT
Gender Diversity Tilt Index

■ S&P/JPX カーボン・
エフィシエント指数



■ FTSE Blossom Japan Index*3



FTSE Blossom
Japan Index

■ FTSE Blossom Japan Sector
Relative Index*4



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

*1 2026年7月末時点の組み入れ状況

*2 MSCIへの組み入れや、MSCI ロゴ・商標・サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCI またはその関連会社によるNTNのスポンサーシップ、支持、または宣伝を意味するものではありません。MSCI インデックスは、MSCI の独自の財産です。MSCI および MSCI インデックスの名称およびロゴは、MSCI またはその関連会社の商標またはサービスマークです。

*3 FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Company の登録商標) はここにNTN株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Index はグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russell が作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

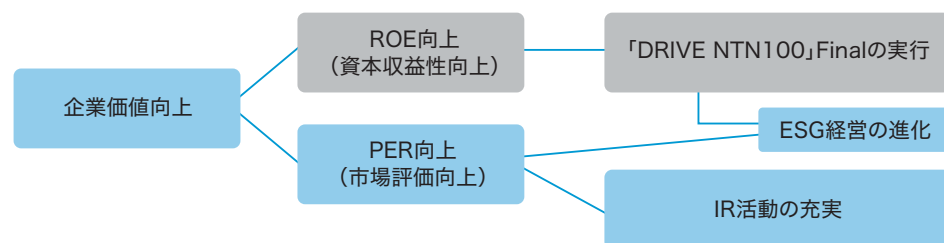
*4 FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Company の登録商標) はここにNTN株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

PER向上に向けたIR活動

当社グループは、投資判断に資する情報を資本市場に開示、投資家との対話とその内容を社内にフィードバックし、企業価値向上の施策に反映するなどのIR活動に取り組んでいます。今後も資本市場における評価向上につながるようIR活動に努めてまいります。

現状認識

現在、当社グループは中期経営計画の重点施策として構造改革を進めており、その過程において、損失の計上による先行的な費用負担で一時的に収益が低下し、ROEは回復途上にあるものの、依然として低水準にとどまっています。一方で、当社はROEのみを企業価値の評価軸とするのではなく、企業価値の向上に向けて、資本市場との対話を通じて成長期待や事業の将来性を適切に伝えるなど、市場評価(PER)の向上にも注力しています。具体的には、構造改革の進捗や次期中期経営計画における成長の方向性、キャッシュ・フローの創出に向けた取り組みを丁寧に説明しています。ROEの着実な改善に加えてPER向上と両輪で進めることで、企業価値の向上を実現してまいります。



	期待効果	方針	実施した施策、注力している活動
「DRIVE NTN100」Finalの実行	稼ぐ力の向上	DRIVE NTN100の基本方針を継続し、構造改革の推進、稼ぐ力の向上を通じて、「NTNの再生」を完遂	・アフターマーケット比率の拡大17% (2023年度)→19%(2025年度) ・CVJアックスル事業の営業利益率改善 2.1%(2023年度)→3.9%(2025年度) ・棚卸資産回転率の向上 3.2(2023年度)→3.4(2025年度)
IR活動の充実	成長期待の向上 不確実性の低下	積極的な情報開示と株主・投資家との対話	・証券会社主催のカンファレンスやスモールミーティングにCEO、CFOが参加 ・事業説明会、工場見学会を実施 ・機関投資家と社外取締役との対話を実施
ESG経営の進化	中長期的機会の増加とリスクの抑制 マネジメントの信頼性向上	ESG経営を推進し、経済的価値と環境・社会的価値を創出して企業価値の向上を図るとともに、人と自然が調和し人々が安心して豊かに暮らせる「なめらかな社会」の実現を目指す	・CO ₂ 削減貢献量: 161.3万トン(2023年度)→187.6万トン(2025年度) ・グループ経営をリードする経営人材の育成→サクセッションプラン候補者: 24名(2023年度)→29名(2025年度) ・ESG指数への組み入れ: 4銘柄(2023年7月時点)→8銘柄(2025年7月時点)

WEBサイトの関連情報

機関投資家と社外取締役との対話



Topics

資本市場と社外取締役との対話

当社のガバナンスの実効性と企業価値向上に向けた社外取締役としての考え方について、2026年1月に資本市場との率直な意見交換を行いました。当社は、社外取締役による独立した視点と建設的な助言をガバナンスの中核に据え、経営の監督機能を高度化することで、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。



1 現中期経営計画と構造改革の評価・課題

投資家からの意見

現中期経営計画「DRIVE NTN100」Finalにおいて、不採算事業の整理や構造改革を進めている点は評価している。一方で、外部環境が急変する中、経営スピードや国内事業を含む構造改革の実行力について、社外取締役としてどのように評価しているのか。

社外取締役の回答

現経営陣は、一貫して強い意志を持ち、事業構造改革に取り組んでいる。欧州・米国を中心とした不採算事業への対応は概ね計画通り進捗しており、価格適正化や原価低減、在庫削減など「稼ぐ力の強化」にも着実な進展が見られる。今後は、外部環境の変化に合わせて、国内事業を含めた必要な構造改革を実行するなど、実行スピードのさらなる向上と、外部環境に左右されにくい収益構造の確立を強く求めている。構造改革を目的化させることなく、成果が企業価値向上として具現化されているかを社外取締役として継続的に検証していく。

2 財務規律とROE・PBRに対する考え方

投資家からの意見

NTNのROEやPBRの水準は依然として重要な課題であると考えている。社外取締役は、財務規律や資本効率についてどのように関与しており、今後どの水準を目指しているのか。

社外取締役の回答

取締役会では、毎月のモニタリングを通じて、営業利益のみならず、ネットD/ELレシオ、自己資本、在庫水準、キャッシュ・フローなどを多面的に確認し、財務規律への関与を行っている。足元ではネットD/ELレシオは0.7台まで改善しており、財務の安全性は一定程度確保できている。一方で、自己資本の水準や在庫削減には依然として改善余地があり、構造改革を通じて利益を積み上げることが重要である。今後は、構造改革の成果を着実に出すことで、ROE8%の早期達成、その先の10%水準を視野に入れている。ROE改善を通じたPBR向上を最終的なゴールとし、営業キャッシュ・フローの創出力を高めた上で、成長投資と株主還元のパランスを図っていく。

3 次期中期経営計画と成長戦略の方向性

投資家からの意見

現中期経営計画が最終年度を迎える中、次期中期経営計画ではどのような方向性を描いているのか。特に、成長戦略と資本効率改善の位置付けについてどのような考えか。

社外取締役の回答

現中期経営計画期間中に構造改革をやりきることが最優先課題である。その上で、次期中期経営計画では、構造改革で整えた収益基盤をもとに、成長戦略を明確化することが重要。具体的には、収益性の高いアフターマーケット・ビジネスの拡大、外部環境に左右されにくい事業ポートフォリオへの転換、ROE・ROICを意識した資本配分を通じ、持続的な企業価値向上を目指す方針である。

4 ガバナンス体制と社外取締役の役割

投資家からの意見

社外取締役がどのように実効的なガバナンスを発揮しているのか、特に海外事業や内部統制へどのように関与しているのか。

社外取締役の回答

社外取締役は、取締役会および指名・報酬・監査各委員会を通じて、経営判断、財務規律、人材・報酬に幅広く関与している。特に海外子会社については、内部統制やガバナンスの強化を重要課題と位置付けており、地域ごとの統制体制の底上げを進めている。また、情報格差を解消するため、社外取締役による国内外拠点への訪問や現場ヒアリングを積極的に行い、現場の実態を踏まえた建設的な議論を行っている。